

## 第 187 回 学長定例記者会見

日時：令和8年1月29日（木）10：30～11：00

場所：メイン会場：広島大学東広島キャンパス 法人本部棟 5 階 5F2 会議室

サブ会場：広島大学東千田キャンパス A 棟 304 中会議室

※サブ会場は、テレビ会議システムによるオンライン参加

※ 会見終了後、YouTube による録画配信を実施

### 【発表事項】

1. ～アラブ諸国の大学長らが集結！～  
第5回平和学長会議－アラブ・チャプターを開催します
2. 早期発見により児童虐待拡大防止へ  
～広大病院と広島県警が児童虐待で連携します～
3. 若手研究者の分野横断的交流を促進  
「DR 若手異分野交流会 2026」を開催します（2/6 開催）
4. 情報科学部棟新営工事に着工します
5. 学長開発の培養軟骨移植治療が「変形性膝関節症」にも保険適用拡大  
～根治の可能性を開く新たな治療として期待～

### 【お知らせ事項】

1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（通称 J-PEAKS）」の取組に関する報告
2. 令和 7 年度（2025 年度）市民公開講座「オンナ・コドモの被爆と復興」  
～資料が語る被爆の長期的社会影響と市民の生きる力～（1/31 開催）
3. 宇宙科学センター「かなた望遠鏡特別観望会」を開催します  
(2/20-21 開催)
4. 令和 7 年度第 2 回広島市立図書館・広島大学図書館連携講演会の開催  
「まちづくりと図書館 ー広島市立図書館に期待することー」
5. AI・DX 経営イノベーション促進プログラム「リスキリング×AI・DX×イノベーションを実現する経営者を目指して！」～実践する事例に学ぶ～

### ■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 8 年 2 月 19 日（木）

場所： 広島大学 霞キャンパス

令和 8 年 1 月 29 日

～アラブ諸国の大学長らが集結！～

第 5 回平和学長会議－アラブ・チャプター

を開催します

広島大学は、平和で持続可能な社会を実現に貢献するため、大学が果たすべき役割や国際連携の在り方について議論することを目的に、世界各国の学長らを招き、これまで 4 回にわたり「平和学長会議」を開催してきました。本会議では、一貫して、大学間連携、学生・若手研究者の交流、ならびに共同資金調達に取り組むこと等を盛り込んだ「平和学長宣言」を採択しています。

これまでの議論と成果を踏まえ、今後さらに多様な国・地域との連携を拡大し、国際的な対話を一層に深化させるため、これまで本会議への参加が限定的であったアラブ地域に着目し、アラブ大学協会の協力のもと、アラブ諸国の大学長らをお招きし、「第 5 回平和学長会議－アラブ・チャプター」を 2026 年 2 月 4 日に開催いたします。

さらに、アラブ諸国との戦略的な大学間連携を一層強化するために、アラブ大学協会と日本で初めてとなるパートナーシップ協定を締結いたします。

現在世界各地で起きている紛争や我々が直面する持続可能な開発目標の課題を考慮すると、和平プロセスには多様な視点と深い理解が不可欠だと考えています。大学には、将来の人材育成、研究の実施、その成果の社会への実装、リーダーシップの発揮といった、重要な役割や期待が託されています。

そこで、被爆地広島に開学した「平和の大学」として、広島大学は「第 5 回平和学長会議－アラブ・チャプター」を通じて、多様な歴史・文化・社会的背景を有するアラブ諸国の主要大学の学長らと共に、これまでの議論を発展させ、持続可能な平和への道筋を探ります。

< 概 要 >

日 時 : 2026 年 2 月 4 日 (水) 10:00～11:40

会 場 : リーガロイヤルホテル広島 3 階瀬戸の間  
(広島市中区基町 6-78)

開 催 校 : 広島大学

来 賓 : 上村 司 外務省政府代表 (中東和平担当特使)

言 語 : 英語 (同時通訳なし)

＜参加予定大学（調整中）＞6カ国 8大学・機関 23人

- ・日本：広島大学
- ・アラブ首長国連邦：アブダビ大学
- ・イラク：アンバール大学、バグダッド大学
- ・カタール：ドーハ大学院研究所
- ・チュニジア：チュニス・エル・マナール大学
- ・ヨルダン：アラブ大学協会、ヨルダン大学

【プログラム】（※今後変更の可能性あります）

時間	プログラム
10:00-10:05	開会挨拶（広島大学長 越智光夫）
10:05-10:10	来賓挨拶（外務省政府代表(中東和平担当特使) 上村司）
10:10-10:20	アラブ大学協会との協定書署名式
10:20-10:40	各大学からのスピーチ①
10:40-10:55	コーヒーブレイク
10:55-11:15	各大学からのスピーチ②
11:15-11:40	平和学長宣言採択・記念撮影

司会：広島大学 理事・副学長（グローバル化担当）金子慎治


※メディアの方は、すべてのプログラムについての取材が可能です。

※プログラム終了後、越智学長および金子理事・副学長が取材に対応予定です。

＜参考：過去の開催実績＞

過去4回の参加国等の累計：21カ国・地域、27大学、海外ゲスト延べ67人

※内訳は以下のとおり。

	概要	参加大学
第1回	 <p>開催日：2024年8月6日 会場：SENDA LAB</p> <p>世界7カ国・地域10大学の学長らで平和と持続可能性に関する大学の役割を議論し、「平和学長宣言」を採択しました。</p>	<b>7カ国・地域 10大学</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本：広島大学</li><li>・米国：アイダホ大学、コロンビア大学</li><li>・台湾：国立成功大学、国立中央大学</li><li>・イタリア：パヴィア大学、ペルーシャ外国人大学</li><li>・インドネシア：ハサヌディン大学</li><li>・インド：インド工科大学ボンベイ校</li><li>・スウェーデン：世界海事大学</li></ul>
第2回	 <p>開催日：2024年11月25日 会場：SENDA LAB</p>	<b>5カ国・3大学</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・広島大学</li><li>・パンアフリカン大学<ul style="list-style-type: none"><li>・PAUWES（アルジェリア：水・エネルギー科学）</li><li>・PAUSTI（ケニア：基礎科学・工学・イノベーション）</li><li>・PAUGHSS（カメルーン：ガバナンス・人文科学・社会科学）</li><li>・PAULESI（ナイジェリア：生命地球科学）</li></ul></li></ul>

	<p>アフリカ連合を代表してパンアフリカン大学の 4 つのキャンパスからの代表団を迎え、アフリカにおける平和と高等教育の連携について議論が深められました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレムセン大学（アルジェリア）</li> </ul>
第 3 回	 <p>開催日：2025 年 3 月 21 日 会場：リーガロイヤルホテル「宮島」</p> <p>本学が 5 事業連続採択となっている文部科学省・世界展開力強化事業のパートナー大学を招き、学生の国際交流を通じた平和について議論を深めました。</p>	<p><b>11 カ国 12 大学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本：広島大学</li> <li>・ インド：ビルラ技術科学大学ピラニ校</li> <li>・ インドネシア：インドネシア教育大学</li> <li>・ オーストリア：グラーツ大学</li> <li>・ エジプト：カイロ大学、エジプト日本科学技術大学（E-JUST）</li> <li>・ ザンビア：ザンビア大学</li> <li>・ スウェーデン：世界海事大学</li> <li>・ タイ：カセサート大学</li> <li>・ マラウイ：マラウイ大学</li> <li>・ 英国：シェフィールド大学</li> <li>・ 米国：アリゾナ州立大学</li> </ul>
第 4 回	 <p>開催日：2025 年 8 月 6 日 会場：SENDA LAB</p> <p>被爆 80 年の節目として、世界 9 か国・地域 12 大学の学長らで平和と持続可能性に関する大学の役割を議論し、「平和学長宣言」を採択しました。</p>	<p><b>9 か国・地域 12 大学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本：広島大学、国連大学、福島県立医科大学</li> <li>・ 米国：アリゾナ州立大学、コロンビア大学</li> <li>・ 台湾：国立中央大学</li> <li>・ イタリア：ペルージャ外国人大学</li> <li>・ マレーシア：トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（UTAR）</li> <li>・ インド：インド工科大学ボンベイ校</li> <li>・ スウェーデン：世界海事大学</li> <li>・ ドイツ：ライプツィヒ大学</li> <li>・ スペイン：バスク大学</li> </ul>

【お問い合わせ先】  
 国際室国際部グローバル化戦略グループ 吉盛・河原林  
 TEL:082-424-4621/6045  
 （携帯：2 / 4 限り 070-1258-7501＜吉盛＞）



令和 8 年 1 月 29 日

## 早期発見により児童虐待拡大防止へ

～広大病院と広島県警が児童虐待で連携します～

日本では少子化が深刻な社会課題となる中、その状況を一層深刻化させているのが児童虐待です。児童相談所に寄せられる虐待相談は年々増加しており、令和 6 年度（2024 年度）に広島県内の児童相談所が受けた相談件数は、前年度比 269 件増の 6,649 件と過去最多となりました。命に危険が及ぶ重大事案も後を絶たず、早期対応と被害拡大の防止が強く求められています。

こうした状況を踏まえ、虐待による乳幼児の頭部外傷（AHT）の真相を早期に解明し、迅速かつ適切な対応につなげるため、このたび広島大学病院と広島県警察本部は、「重大児童虐待事案に係る広島大学病院と広島県警察の連携に関する協定」を締結します。児童虐待事案で、大学病院と県の警察本部が協定を締結するのは、中・四国地方で初の取り組みとなります。

つきましては、下記のとおり協定締結式を開催しますので、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

### 記

- |       |   |
|-------|---|
| 日 時   | 令和 8 年 2 月 10 日（火）15：00～15：35   |
| 場 所   | 広島県警察本部 17 階大会議室（広島市中区基町 9-42）  |
| 締 結 者 | 広島大学病院 病院長 安達伸生（あだち・のぶお）<br>広島県警察本部 本部長 森本敦司（もりもと・あつし）  |
| 協力内容  | ①広島県警察本部が AHT を認知した場合、初期段階から広島大学病院と広島県警察間で密に情報共有し、両者で早期対応にあたる<br>②広島大学病院以外の医療機関で診察を受けた AHT 被害児童について、広島大学病院が医学的知見に基づき、広島県警に見解を提供する |
| 備 考   | 締結式終了後、締結者らによる記念写真を撮影します<br>広島大学病院長と県警刑事部長らが記者会見に応じます   |

### 【お問い合わせ先】

広島大学病院総務グループ  
TEL:082-257-5418



令和 8 年 1 月 2 9 日

若手研究者の分野横断的交流を促進  
「DR 若手異分野交流会 2026」を開催します

広島大学では、特に優れた若手教員を DR (Distinguished Researcher(優れた研究者)) として認定し、重点的に研究を支援する制度を設けています。

このたび、令和 6 年度(2024 年度)に認定された DR を中心に、分野や所属の垣根を越えた若手研究者同士の交流を目的に「DR 若手異分野交流会 2026」を初めて開催します。

本交流会では、DR によるフラッシュトーク\*や自由な意見交換を通じて、新たな研究視点や研究者間のつながりが生まれることを期待しています。

異分野交流や DR 制度に関心を持つ若手教員の皆さまの参加を広く募集します。

■ 開催概要

日時：令和 8 年 2 月 6 日(金) 16:30~18:00

形式：対面のみ

場所：広島大学 東広島キャンパス

MIRAI CREA 1 階 多目的スペース

対象：広島大学に所属する若手教員

(異分野交流や DR 制度に関心のある方/年齢制限なし)

参加費：無料

■ プログラム(予定)

16:30 挨拶 広島大学 理事・副学長(研究担当) 宮崎 誠一

16:40 令和 6 年度認定 DR(別紙参照)によるフラッシュトーク

\*フラッシュトーク…一人 3 分程度の短いプレゼンテーション

17:15 交流会

18:00 閉会

■ 参加申込

右の二次元コードよりお申し込みください。



■ 申込期限

令和 8 年 2 月 5 日(木)

■ 取材について

冒頭の挨拶とフラッシュトークについては取材が可能です(交流会についてはご遠慮ください)。取材を希望される場合は、上記の二次元コードよりお申し込みください。

■ DR 制度について

DR（Distinguished Researcher）制度は、将来の研究を牽引する特に優れた若手教員を認定し、研究環境や研究活動を重点的に支援する制度で、平成 25 年（2013 年）2 月に創設しました。創設以来 53 人の DR を認定しています。現在、令和 8 年度（2026 年度）認定 DR の公募を実施中です。

【お問い合わせ先】

未来共創科学研究本部  
研究戦略部 研究戦略推進部門  
E-mail : [ura@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:ura@office.hiroshima-u.ac.jp)  
Tel. : 080-7023-2792（村上／業務用直通）



2026

Transdisciplinary Exchange Event with DR

# DR若手異分野交流会

広島大学には特に優れた若手教員をDR(Distinguished Researcher)として認定し  
研究を支援する制度があります。R6年度に認定されたDRとともに  
分野や所属の垣根を越えて若手研究者同士、気軽に交流しませんか？  
自由な意見交換を通じて新たな視点やつながりが広がる時間になればと考えています。  
どうぞお気軽にご参加ください。

## R6年度認定DR

- 澤井 努 特定教授/人間社会科学研究科
- 今任 景一 准教授/先進理工系科学研究科
- 檜垣 徹 准教授/先進理工系科学研究科
- 鈴木 直樹 准教授/酪農エコシステム技術開発センター
- 奥村 美紗子 准教授/統合生命科学研究科
- Chimed Ochir Odgerel 准教授/医系科学研究科(医)
- 大黒 亜美 准教授/医系科学研究科(薬)
- 河原 大輔 准教授/病院放射線部
- Simangan DahliaCollado 准教授/IDEC 国際連携機構
- 坂田 のぞみ 准教授/IDEC 国際連携機構
- 稲見 華恵 准教授/宇宙科学センター

Feb.6(Fri)

16:30~18:00  
2026

Venue:  
広島大学  
東広島キャンパス  
MIRAI CREA  
多目的スペース

1  
宮崎誠一 研究担  
当理事 挨拶

2  
R6DRによる  
フラッシュトーク

3  
交流会



参加申込  
こちら



未来共創科学研究本部 研究戦略推進部門  
ura@office.hiroshima-u.ac.jp  
080-7023-2792 (村上:業務用直通)



2026

## Transdisciplinary Exchange Event with DR

# DR若手異分野交流会

Hiroshima University has a program that recognizes outstanding early-career faculty members as Distinguished Researchers (DRs) and provides support for their research activities.

We are pleased to invite you to a casual networking event with researchers certified as DRs in FY2024. This event is designed to provide early-career researchers with an opportunity to meet and interact with peers from different fields and departments within the university. Through open and relaxed exchanges, we hope participants will gain new perspectives and foster meaningful connections.

We warmly encourage you to join us.

### DRs certified in FY2024

- Tsutomu SAWAI Professor (Special Recognition)/Humanities and Social Sciences
- Keiichi IMATO Associate Professor/ Advanced Science and Engineering
- Toru HIGAKI Associate Professor/ Advanced Science and Engineering
- Naoki SUZUKI Associate Professor/Dairy Ecosystem Research and Development Center
- Misako OKUMURA Associate Professor/ Integrated Sciences for Life
- Chimed Ochir Odgerel Associate Professor/Biomedical and Health Sciences
- Ami OGURO Associate Professor/Biomedical and Health Sciences
- Daisuke KAWAHARA Associate Professor/Hospital, Division of Clinical Radiology
- Simangan Dahlia Collado Associate Professor/The IDEC Institute
- Nozomi SAKATA Associate Professor/The IDEC Institute
- Hanae INAMI Associate Professor/Hiroshima Astrophysical Science Center

Feb. 6 (Fri)

16:30 ~ 18:00

2026

Venue:

Hiroshima University  
Higashi-Hiroshima Campus  
MIRAI CREA  
Multipurpose Space

1  
Opening Remarks by  
Seiichi MIYAZAKI  
Executive Vice President for  
Research

2  
Flash Talks by  
FY2024 DRs

3  
Networking Session



Scan this QR  
code to apply  
for participation.



Research Strategy and Promotion Division  
Headquarters for Co-creative Future Sciences  
Hiroshima University  
ura@office.hiroshima-u.ac.jp  
080-7023-2792 (Murakami)



令和 8 年 1 月 2 9 日

**広島大学情報科学部棟新営工事に着工します**

本学情報科学部は平成 30 年（2018 年）に 12 番目の新しい学部としてスタートしましたが、情報科学部独自の建物はありませんでした。

学部開設時の入学定員は 80 人でしたが、令和 5 年度（2023 年度）には文部科学省事業「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に採択され入学定員が 150 人に増員しました。さらに同年「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援（ハイレベル枠）」に中国四国地区で唯一選定され、令和 7 年度（2025 年度）には入学定員を 180 人に増員。編入学定員も含めると 1 学年 200 人規模の学部へ拡大しました。

入学定員の大幅な拡大や学生増加に伴う教員の増員により、講義室の不足や教員研究室の点在による学生サービスへの影響について懸念されてきました。

そこで、この度、令和 8 年度（2026 年度）末の完成を目指し、情報科学部棟を新たに建設することになりましたのでお知らせします。

新棟には、フロア内の壁を極力なくしたオープンな研究室や学生研究室、200 人規模の学生が一度に収容できる 3 つの大講義室、学内外の交流が行える多目的スペースや、演習や実験に使うことを想定したインタラクティブラボ※、イベントにも活用できる吹き抜けのエントランスなどを設ける予定です。

建物完成次第、順次研究室の入居を開始するとともに、授業については令和 9 年度 4 月からの実施を予定しています。

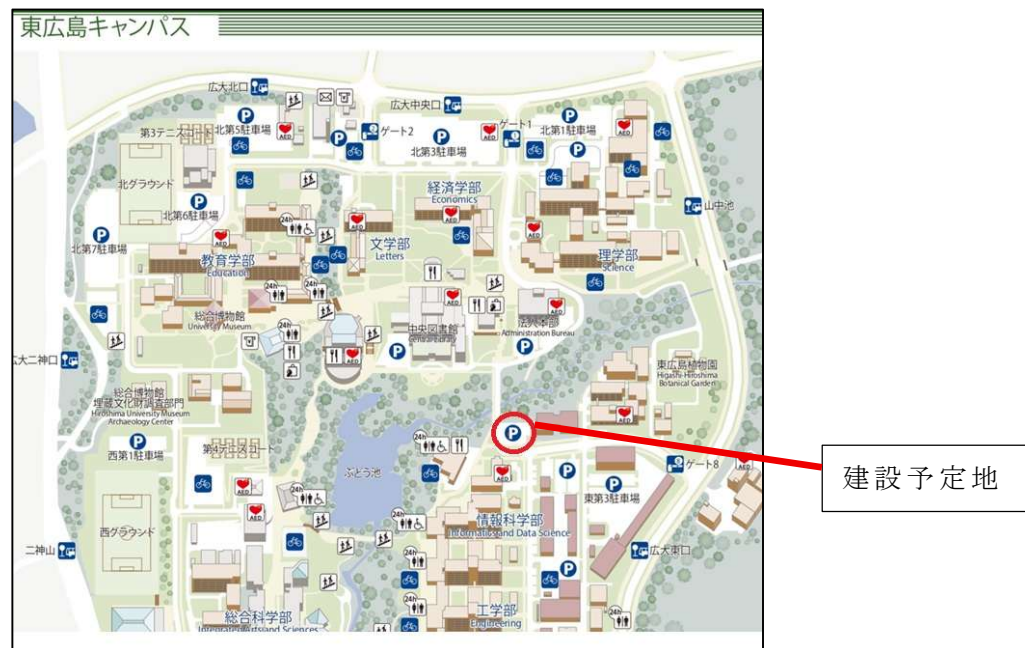
※インタラクティブラボ … 人と技術・コンテンツが相互にやり取りできる体験を研究・実験・制作する場。

**【建物概要】**

建物名称：情報科学部棟  
建設場所：東広島市鏡山 1-4-2  
建物構造：鉄骨造 7 階建て  
建築面積：739.20 m<sup>2</sup>  
延床面積：5025.08 m<sup>2</sup>  
建物建築費：約 20.7 億円（見込み）  
設備費：約 1.3 億円（見込み）

完成イメージ：検討段階のものであり、今後変更となる可能性があります。

## < 建設予定地 >



## 【お問い合わせ先】

工学系総括支援室

副室長 川口

TEL:082-424-7562

FAX:082-422-7039

令和 8 年 1 月 29 日

学長開発の培養軟骨移植治療が「変形性膝関節症」にも保険適用拡大  
～根治の可能性を開く新たな治療として期待～

広島大学の越智光夫学長が開発・技術移転した「自家培養軟骨移植治療」が、2026 年 1 月に「変形性膝関節症」へ保険適用を受けました。本治療は、国内に 1,000 万人いるとされる変形性膝関節症患者の医療費負担を軽減するとともに、根治の可能性を開く新たな治療法として期待されます。

保険適用を受けたのは、株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング（J-TEC、愛知県蒲郡市、山田一登社長）の医療製品、自家培養軟骨「ジャック」です。患者自身の正常な膝軟骨細胞を採取し、約 4 週間培養したゲル状の培養軟骨で、欠損部位に移植して軟骨再生を促します。運動療法や薬物療法で改善が見られず、一定以上の軟骨欠損のある患者が対象で、高額療養費制度の適用により、自己負担額は月額約 6 万～25 万円程度に抑えられます。

越智学長は、1996 年に培養軟骨移植治療を開発。J-TEC に技術移転を進め、2012 年に「外傷性軟骨欠損症」と「離断性骨軟骨炎」で、国内初の製造販売承認を受け、2013 年に保険適用を受けました。これまで約 2,000 人の患者が治療を受けています。

2019 年から広島大学大学院医系科学研究科の安達伸生教授が、臨床試験を開始し、国際的評価指標である WOMAC スコアで、膝機能の大幅な改善が確認されるとともに、有害事象が認められないなど、有効性と安全性が評価され、今回「変形性膝関節症」へも保険適用が広がりました。

「変形性膝関節症」の治療は、薬物療法や運動療法、人工関節置換術、骨切り術などが主流ですが、軟骨の自然再生は非常に難しく根治的治療法は確立されていません。この培養軟骨移植治療では、手術後 52 週時点で従来の軟骨と同様の組織による修復が確認された症例もあり、疾患の根治の可能性を開く治療として期待されます。

本学では、今回の保険適用を、長年の基礎研究と臨床研究が社会実装された重要な成果と位置付け、変形性膝関節症に苦しむ患者への新たな治療の選択肢として、今後の普及とさらなる臨床研究に注力してまいります。なお、J-TEC では、数年後に年間約 1000 例の使用を目指しています。

本件の詳細については、2026 年 1 月 22 日に東京都中央区で J-TEC と共同開催した別紙の記者会見資料をご参照ください。

【お問い合わせ先】

広島大学病院運営支援部総務グループ

Tel：082-257-5418 FAX：082-257-5087

E-mail：byo-toku-chousa@office.hiroshima-u.ac.jp

2026 年 1 月 22 日

## 国内初の軟骨修復が可能な変形性膝関節症治療法へ 自家培養軟骨「ジャック」が変形性膝関節症で保険適用

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング（本社：愛知県蒲郡市、社長：山田 一登、以下「J-TEC」）が製造販売する自家培養軟骨「ジャック」が、2026 年 1 月 1 日付で、新たな適応症である変形性膝関節症への保険適用を認められました。

「ジャック」は、日本で初めて軟骨欠損の修復が可能な製品であるため、変形性膝関節症の根治に繋がる治療法として期待されています。このたびの保険適用によって、いまや国民病ともされる変形性膝関節症の新たな治療の選択肢として、さらに多くの患者さんの治療に貢献し、高齢化社会における未充足な医療ニーズの解決を目指していきます。

### 1. 背景・経緯

- (1) 変形性膝関節症は、加齢や外傷などの要因により膝の軟骨がすり減ったり欠けたりすることで、次第に関節が変形する疾患です。膝の軟骨は、歩行時や立ち上がる時のスムーズな動作を助け、衝撃を吸収するクッションの役割を果たすことから、軟骨が損傷すると疼痛が生じ運動機能の低下をもたらします。重症化すると日常の活動も制限され、患者さんやその家族の負担となる場合があります。国内の患者数は約 1000 万人とも推定されており、高齢化に伴って増加傾向にあります。
- (2) 治療は、ヒアルロン酸ナトリウム注射製剤などの薬物療法や筋力トレーニングなどの運動療法といった保存的治療や、人工関節置換術や骨切り術などの外科的治療が行われています。一度損傷した関節の軟骨は自然に再生する可能性が極めて低い一方で、これまでは軟骨自体を治療する有効な治療法はありませんでした。
- (3) このような課題に対して J-TEC は、再生医療による新たな治療を提供するため、2000 年より自家培養軟骨「ジャック」の開発を開始しました。2012 年 7 月には外傷性軟骨欠損症および離断性骨軟骨炎の適応を取得し、2013 年 4 月に製品を上市しました。その後、2025 年 5 月に変形性膝関節症の一部変更承認を取得しました。そして、このたびの保険適用によって、患者さんが公的医療保険による治療を受けることが可能になりました。

### 2. 自家培養軟骨「ジャック」による変形性膝関節症の治療について

- (1) 「ジャック」は、現 広島大学 越智 光夫 学長が 1996 年に創案した、患者さんの正常な膝の軟骨細胞を培養して製造するゲル状の人工軟骨です。2000 年から越智先生の監修のもと、J-TEC が製造販売に向けた開発を手がけてきました。2013 年 4 月の上市以降、「膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎（変形性膝関節症を除く）」の適応に対して 2000 例以上の患者さんに使用されてきました。
- (2) 今回新たに保険適用になったのは、変形性膝関節症で「運動療法等の保存療法により臨床症状が改善せず、かつ軟骨欠損面積が  $2\text{ cm}^2$  以上の軟骨欠損部位」が対象です。また、移植した「ジャック」は、固定膜（人工コラーゲン膜もしくは骨膜）で蓋をして固定することから、欠損部の周りに縫合するための軟骨を有する必要があります。



### 3. 変形性膝関節症を対象とした治験結果の概要

- (1) 2019 年から実施してきた変形性膝関節症を適応症に追加するための治験\*<sup>1</sup>では 27 例の患者さんに使用されました。有効性は、治療前後の膝機能評価(WOMAC)\*<sup>2</sup>のスコアが、比較試験の対照製品であるヒアルロン酸ナトリウム注射製剤よりも有意に改善しました。
- (2) 有効性の副次評価項目においても、「ジャック」を移植した箇所が、治療後 52 週目には正常な軟骨と同様の組織で修復していることが確認できました。これらの結果から「ジャック」は、膝関節を可能な限り温存することを目指す治療法であると考えます。また、本来の軟骨が有する機能を回復することで疼痛の軽減や運動機能が改善され、活動的な生活を取り戻すことや、長期的な患者さんの QOL の向上が期待されます。
- (3) 安全性では問題となる有害事象は認められませんでした。また、自分の細胞を用いて製造するため拒絶反応のリスクが極めて低いと考えられます。このような理由により、他の治療法を諦めていた患者さんにとって新たな治療の選択肢となり得ます。

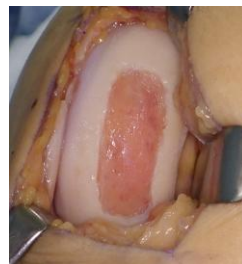
\*<sup>1</sup> ヒアルロン酸ナトリウム製剤による関節内注射治療を対照とした多施設共同無作為化非盲検並行群間比較試験

\*<sup>2</sup> WOMAC スコア (Western Ontario McMaster Osteoarthritis Index) :

変形性膝関節症の治療評価判定として国際標準で用いられるスコア。患者自身で「痛み・こわばり・身体機能」を評価して記入する。



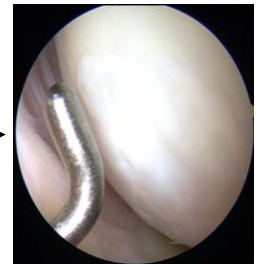
自家培養軟骨「ジャック」



移植前



移植6ヵ月後



移植1年後

変形性膝関節症に対する「ジャック」移植後の軟骨の修復経過  
(硝子軟骨様組織による修復が認められた例)

### 4. 今後の展開

- (1) J-TEC は、今後、「ジャック」に対する情報提供活動の強化と安定供給につとめ、数年を目途に年間 1000 例の患者さんへの提供を目指していきます。
- (2) J-TEC は今後も、日本の再生医療のパイオニアとして、アンメット・メディカル・ニーズの解決に資する再生医療等製品を提供しつづけ、ビジョンとして掲げる「再生医療をあたりまえの医療に」の実現を目指していきます。

以 上

#### 【 当件に関するお問合せ先 】

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング 経営管理部 (広報) 田中

E-mail : rina\_tanaka@jpte.co.jp

TEL (携帯) : 080-7703-3409



## &lt;別添資料&gt; 保険収載の概要

販売名	ジャック		
保険収載日	2026 年 1 月 1 日		
保険償還価格	組織運搬セット 培養軟骨パッケージ	①採取・培養キット ②調製・移植キット	1,000,000 円 1,890,000 円
決定区分	B2（既存機能区分・変更あり）		
主な使用目的 （下線部： 2025 年 5 月 13 日付 の一部変更承認 での追加部分）	<p>本品は、患者から採取した健常な軟骨組織から分離した軟骨細胞をアテロコラーゲンゲルに包埋して培養し、患者自身に適用する自家培養軟骨である。軟骨細胞を含むアテロコラーゲンゲルを欠損部に移植することにより、外傷性軟骨欠損症若しくは離断性骨軟骨炎の臨床症状を緩和し、又は変形性膝関節症の臨床症状を改善する。</p> <p>&lt;本品の効能、効果又は性能&gt;</p> <p>1. 外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎 膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎の臨床症状の緩和。ただし、他に治療法がなく、かつ軟骨欠損面積が 4cm<sup>2</sup> 以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。</p> <p>2. 変形性膝関節症 <u>変形性膝関節症に対する臨床症状の改善。ただし、運動療法等の保存療法により臨床症状が改善せず、かつ軟骨欠損面積が 2cm<sup>2</sup> 以上の軟骨欠損部位に適用する場合に限る。</u></p>		
留意事項 下線部が追加・ 変更事項	<p>150 ヒト自家移植組織</p> <p>(1)～(3) 略</p> <p>(4) 自家培養軟骨</p> <p><u>ア 以下のいずれかの患者に実施した場合に限り算定できる。</u></p> <p><u>a 膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎（変形性膝関節症を除く。）で、他に治療法がなく、かつ、軟骨欠損面積が 4 cm<sup>2</sup> 以上の軟骨欠損部位を有する患者。</u></p> <p><u>b 変形性膝関節症で、運動療法等の保存療法により臨床症状が改善せず、かつ軟骨欠損面積が 2 cm<sup>2</sup> 以上の軟骨欠損部位を有する患者。</u></p> <p>イ 使用した個数、大きさにかかわらず、所定の価格を算定する。</p> <p>ウ 以下のいずれにも該当する医師が使用した場合に限り算定する。</p> <p>a 整形外科の経験を 5 年以上有しており、関節軟骨修復術 10 症例以上を含む膝関節手術を術者として 100 症例以上実施した経験を有する常勤の医師であること。</p> <p>b 所定の研修を修了していること。なお、当該研修は、次の内容を含むものであること。</p> <p>i 自家培養軟骨の適応に関する事項</p> <p>ii <u>外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎と変形性膝関節症との鑑別点に関する事項</u></p> <p>iii 軟骨採取法に関する事項</p> <p>iv 周術期管理に関する事項</p> <p>v 合併症への対策に関する事項</p> <p>vi リハビリテーションに関する事項</p> <p>vii 全例調査方法に関する事項</p> <p>viii 手術方法に関する事項（自家培養軟骨に類似した人工物を用いた手技を含む。）</p> <p>エ ヒト自家移植組織（自家培養軟骨）を使用した患者については、診療報酬請求に当たって、診療報酬明細書に使用する医療上の必要性及び軟骨欠損面積等を含めた症状詳記を記載すること。</p> <p><u>オ ヒト自家移植組織（自家培養軟骨）を変形性膝関節症の患者に対して使用する場合には、日本整形外科学会の定める「ヒト（自己）軟骨由来組織の変形性膝関節症に対する適正使用指針」を遵守すること。</u></p> <p>(5)～(8) 略</p>		